

# JCA NEWS



Japan Communication Association (JCA) Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター



“杉玉”

photo by Shige (中国・四国支部)

## CONTENTS

- |                      |         |                  |         |
|----------------------|---------|------------------|---------|
| 1. 巻頭言：年次大会実行委員長挨拶   | ..... 1 | 6. 支部ニュース：       | .....12 |
| 2. 2015 年度第 2 回理事会報告 | ..... 2 | 北海道支部            | .....12 |
| 3. 学術局報告             | ..... 6 | 東北支部             | .....12 |
| 第 4 6 回年次大会について      | ..... 6 | 中部支部             | .....13 |
| 学会誌に関するお知らせ          | ..... 6 | 関西支部             | .....14 |
| 第 46 回年次大会発表募集 (CFP) | ..... 9 | 中国・四国支部          | .....14 |
| 学会誌第 44 号掲載論文        | ..... 7 | 九州支部             | .....15 |
| 4. 事務局報告             | .....9  | 7. メールアドレス登録のお願い | .....16 |
| 5. 広報局便り             | .....12 | 8. 編集後記          | .....16 |

112  
2016.6

## 巻頭言

### 第46回 JCA 年次大会を開催するにあたって

年次大会実行委員長 野中昭彦 (中村学園大学)



この度の熊本地震は九州に大きな爪あとを残しました。まだまだ多くの方が避難生活を余儀なくされています。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

さて、JCAは6月11日と12日に福岡市の西南学院大学において、「コミュニケーションとパワー」というテーマのもと、第46回年次大会を開催いたします。熊本の震災の時には福岡も相当揺れましたが、九州が一致団結して復興へ目指すという底力をお見せします。今年も多くの研究発表とパネルの申し込みを頂いております。どれも興味深く、またテーマも多岐にわたり、日本におけるコミュニケーション学の裾野が広がっていることを改めて実感します。

徐々に拡大しているJCAではありますが、未だ発展途上であることは否めません。長いようで短い、この46年のJCAの歴史はいくつの変遷を辿ってきました。日本のコミュニケーション学の先駆者である先生方が、そしてその後続く多くの先生方が欧米に学び、日本を振り返り、新たな理論や方法論を確立してこられました。そして、今まさに日本のコミュニケーション学は黎明期を抜け、新たな段階へと大きく進もうとしています。

その証拠に今年はInternational Communication Association (ICA)が日本で初めての年次大会を福岡で行います。こちらは6月9日から13日の5日間行われ、世界中からコミュニケーション学者が集い、熱い議論が交わされることでしょう。同時に世界が日本のコミュニケーション学の力強い発展を認め、垣間見る素晴らしい機会となるはずです。66回目の年次大会を迎える先輩格のICAを迎え、福岡の6月はコミュニケーション学一色になります。西南学院大学からほど近いヒルトンホテルが会場ですので、皆さんもICAを覗いてみてはいかがでしょうか？基調講演として、ICAでも活躍されているユタ大学のKent Ono先生をお迎えし、アジアと西洋の両面から興味深いお話をさせていただきます。

また、福岡が舞台ということで、九州にゆかりのある先生方に、JCAのこれまでの発展の目撃者としての生の“証言”をしていただきます。我々が知らない苦労や失敗、そして感動など面白いお話を聞けることと期待しています。歴史的縦軸と文化的横軸が交差し、人がつなぐコミュニケーションをダイナミックに体験できる今年の年次大会は、人間が持つ力をいつも以上に体験できることでしょう。

こんなことを書いている私も今年で46歳。実はJCAと同い年です。また今年で100周年を迎える西南学院大学の卒業生です。自分の生まれ育った福岡で、そして自分の母校で、かつ初のICA同時開催というタイミングで大会実行委員長を拝命し、感慨もひとしおです。実行委員一同万全を期して皆様をお迎えしますので、是非お誘い合わせのうえ福岡へお越しください。

最後に、福岡といえばやっぱり料理が美味しい土地です。本場の九州の料理を是非ご堪能ください。ラーメンや屋台以外にも美味しいものがたくさんあります。おすすめは鶏と豚と牛と魚とイカです。福岡ではグルメでそこそこ有名な私ですので、お店選びで困った際は是非私を活用してください。

## 2015年度 第2回理事会報告

2016年3月25日(金)午後1時より、日本コミュニケーション学会の2015年度第2回理事会が、JR東京駅に隣接する「東京駅前サピアタワー」にある「関西大学東京センター」にて開催された。20名の理事の出席により理事会は成立した。

### 【報告事項】

#### 【1】会長挨拶

支部活動が活発に行われており大変喜ばしい。コミュニケーションの名を冠した学科が設置されるようになってきているが、その中でコミュニケーション学の存在意義を確立し、学会としてとして提言を行っていくことが重要となる。そのためには、コミュニケーション学の研究・教育の体系化を進めるべきであるが、科研等の研究領域区分をみても、コミュニケーション学の領域が十分に確立されているとはいえない。体系化を進めるにあたり、学会として各支部・各会員のご協力をお願いしたい。

#### 【2】報告事項

##### 1. 第46回年次大会

###### ① 学術局より(野中、森泉)

学術局会議がおこなわれ、論文審査を行った。6月11～12日に西南学院大学にて開催される年次大会に向け、論文・パネルが集まり、プログラムを作成中。論文は全部で17本となった。昨年18～19本ほどだったので例年通りといえる。パネルは今年度1つ増えた。

###### ② 会場校担当より(清宮)

会場校担当より(清宮)。懇親会会場の視察を行った。前回西南大学での年次大会(第41回)の際使用したキャンパス内の会場は今回使用できないため、近隣ホテル、レジデンシャルスイート内レストランを利用予定。宿泊のホテルが混雑している。前回のニュースレターでも、はやめの予約をお願いしている。引き続き、早めのご予約と、現状では久留米、北九州などを含めて探すこともご検討いただく。

###### ③ 基調講演者について以下の報告があった。

Kent Alan Ono 教授

ユタ大学コミュニケーション学科長

基調講演は英語

##### 2. 各局および担当理事報告

###### (1)事務局

###### ①入退会者および会費納入報告(清宮)

会員の状況について以下の通り報告があった。

- ・昨年12月の理事会以降の新入会員5名
- ・会員総数444名:正会員424名、学生会員19名、準会員1名

###### ②会計報告(松島)

概要は事務局報告を参照。

###### (2)学術局

###### ①ジャーナル関連(坂井)

###### 1. 『日本コミュニケーション研究』第44巻第2号

- ・2016年5月31日発行予定
- ・2015年度年次大会学術講演論文(林香里先生)1本、研究論文4本、合計5本の第二稿校正中

2. 『日本コミュニケーション研究』第45巻第1号
  - ・2016年11月30日発行予定
  - ・投稿論文9本受理(再投稿論文1本含む)
  - ・投稿締め切り2016年1月31日
  - ・現在査読委員16名(ゲスト4名)による審査中
  - ・初回査読者に2名による再投稿論文1本再審査中
  - ・5月中旬結果通知予定
3. 『日本コミュニケーション研究』第45巻第2号
  - ・投稿論文募集開始
  - ・2016年7月31日締め切り
4. 再投稿論文
  - ・2015年11月12日1本受理
  - ・2016年1月21日結果通知
5. 学会誌執筆要領第5条(体裁)4)、5)「参考文献」→「引用文献」へ修正
6. 次回再投稿論文受理日(2016年7月31日)
7. 抜き刷りのPDF化に関する経過報告

#### ②J-Stageへの移行について

国立情報学研究所電子図書事業(NII-ELS)の終了(平成29年3月)による、J-Stage(科学技術情報発信・流通総合システム)への移行の背景と手続きの経過が報告された。

#### ③学会賞関連

審査対象の著書1点、論文1点あり。

### (2)広報局(高永、小山)

#### ①ロゴマークについて

新ロゴマークをニュースレターとホームページ上で発表(2月2日)。利用の規定など審議予定。

#### ②ニュースレターの発行と次号の予定(小山)

ニュースレター111号(2月号)を発行した。次号112号(6月号)は、5月末日までの発行予定。4月11日(月)原稿依頼、4月25日(月)原稿締め切り予定。支部大会、支部研究会などの写真があれば、報告に添付いただきたい。また、「コラム:コミュニケーション教育」「書評」の投稿推奨、自薦、他薦をお願いしたい。

#### ③他学会への年次大会案内送付について

年次大会チラシが完成後、4月上旬に案内を出す予定。下記の送付予定学会以外に候補があれば広報局へお知らせ願いたい。

異文化教育学会、他文化関係学会、日本マス・コミュニケーション学会表文化論学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、映画英語教育学会、外国語メディア学会、大学英語教育学会、日本ディベート協会、SIETAR JAPAN、日本語用論学会。

#### ④第46回年次大会の広告・展示ブース出展企業について(高永)

現在プログラム広告は4社、展示ブース出展が1社の予定。

#### ⑤Web関連

1. 教員公募の更新
2. ニュースレター掲載 110号(2015年10月)、111号(2016年2月)

### 3. 各支部報告

各支部長がそれぞれ報告を行った(内容は支部ニュースを参照)。

## 4. 各理事よりその他報告

## (1) レトリック研究会の活動報告 (藤巻)

- ① 岡部朗一先生の蔵書が、立教大学英語教育研究所に納められ、文庫化された。現在目録作成中。2015 年度中に完成させ、教育研究所とレトリック研究会の HP で公開予定。
- ② HP を整備中。今後、年度内に数回にわたり整える予定。
- ③ 2015 年 12 月 19 日、愛知淑徳大学にて、中部支部大会と合同で行った。
- ④ 年次大会でのパネル。第 45 回で「レトリックとジャーナリズム」を持った。第 46 回に向けてテーマを募集中。
- ⑤ 次年度の世話人は是澤先生の予定。

## (2) 海外渉外担当理事 (宮原)

- ① 2016 年 6 月 9 日から 13 日まで、第 66 回 ICA 年次大会が福岡で開催される。JCA と ICA のジョイントとして大がかりなものとは計画していないが、6 月 12 日 (日) 13:00 から 15:00 まで、西南大学内のキャンパスツアーとお茶会が開催され、ICA より 20~30 名ほどの参加が予定されている。
- ② JUCA (Japan-US Communication Association) の NCA 年次大会 (2016 年 11 月、Philadelphia) での発表論文の投稿の締め切りが 3 月 30 日となる。

**【審議事項】****【1】第 46 回年次大会関係**

## 1. 論文査読結果

17 本の論文発表の申し込みがあり、審査の結果全て受理された。

## 2. プログラムについて

6 月 11 日と 12 日のセッションスケジュールと会場の割り当てが行われた。主な変更は、1 日目の支部会、昼食、総会の時間を短縮し、スケジュールをコンパクトにした点。

## 3. 学術局セッション

テーマはコミュニケーション研究と社会実践。メディアリテラシー、対人コミュニケーション、福祉の領域で、社会実践を行っておられる、高井先生、森泉先生、長谷川先生にご登壇いただく。

## 4. 企画担当理事パネル

コミュニケーション研究のオーラルヒストリー。橋本先生、畠山先生、佐藤先生、師岡先生にご登壇いただき、九州支部におけるコミュニケーション研究・教育の発展をお話いただく。

## 5. プログラムとチラシは 5 月の連休明けの発送予定。同時に Web 上の申し込みを開始。また、その際お弁当の申し込みもできるようにする。

**【2】各局関係**

## 1. 事務局

## ① 支部助成金

助成金の申請は早めに行う。具体的には 6 月 1 日から 12 月の理事会までをめぐりに申請を完了する。また、JCA の会計年度の 6 月開始の問題点があげられ、会計年度 4 月からの開始が検討された。この点は情報収集をした上で、あらためて審議することとなる。

## ② 研究会の助成金

研究会の助成金は必要に応じて事務局に申請を行う。事務局、会長、副会長で審議し決定し、理事会で報告する。助成金額の上限はあらかじめ設定はしない。

## ③ 支部繰越金

支部繰越金が増えすぎないように、支部活動とバランスをとり調節する。助成金の申請・辞退は各支部で判断していく。

## 2. 広報局

### ① 日本コミュニケーション学会ロゴマークについて

ロゴマークの使用規定が理事会で決定された。今後ホームページで公開される。ロゴマークの学会外での使用は広報局へ許可を申請する。また、今後ロゴマークのデジタルデータの配付を行う。

### ② ホームページのリニューアルについて

JCAのホームページのリニューアルについて、リポジトリの設置、URLの変更などを含めた見積もりを取り、継続審議をしていく。

## 3. 学術局

### ① 学会賞の審査結果

以下の著作が審査の結果、学会賞の受賞が決まった。

教科書・啓蒙書の部

『日常から考えるコミュニケーション学～メディアを通して学ぶ』池田理知子著

論文の部：奨励賞

Imai Tatsuya, Umemura Tomo, Taniguchi Emiko, Anita L. Vangelisti, René Dailey 著 “Worrying Weights on Your Partner’s Heart: Exploring How Rumination about a Romantic Relationship is Associated with Relational Uncertainty Using Dyadic Data” (『日本コミュニケーション研究』第44巻2号掲載)

### ② J-Stage への移行について

オープンアクセスまでの期間と課金設定(期間)、運用における費用効果などについて協議が行われ、現況では J-Stage への移行の方向をとるが、それ以外の方法の可能性も含め、今後も継続協議することとなる。

## 【4】その他

### 1. 2016 年度、理事会の新体制について

五島会長の二期目の継続が決定した。次期体制を6月の理事会に諮る。

### 2. 退会された先生などへの謝礼・経費について

年次大会などへ退会された先生をお呼びする際の謝礼・経費の支払いの方針について審議された。

## 【5】次回理事会等の開催

6月10日(金) 15:00より、西南学院大学コミュニティーセンター2階、プロジェクトルームにて開催予定。

## 学術局報告

### 第46回年次大会について

第46回年次大会は、2016年6月11日、12日の二日間、福岡市の西南学院大学で行われます。現在、年次大会担当理事をはじめとする学術局によって順調に準備が進められています。今年のテーマは「コミュニケーションとパワー」です。

今年100周年を迎える西南学院大学は福岡空港から地下鉄で20分と、利便性の高い立地にあります。この20分の間に九州一の繁華街、中洲も博多駅もショッピングの中心地である天神も全てが並んでいます。美味しい福岡の料理も皆様をお待ちしています。

今年はInternational Communication Association (ICA) と同時開催になっております。ICAが行われる会場はヒルトン福岡であり、西南学院大学からは徒歩で15分足らずです。せっかくの機会ですので是非皆様も世界規模のコミュニケーション学会を楽しんではいかがでしょうか。

6月11日(土)の15:10からは、ユタ大学のケント・オノ先生をお迎えして、「The Shifting Landscape of Asian Americans in the Media」と題し、学術講演を行います。オノ先生はこれまでもアメリカのメディアにおけるアジア人の描写に関する多くの研究を行っており、日本をルーツに持つオノ先生だから可能となった独自のフィルターを通した分析を行っています。

今回は通常よりパネルが多い年次大会となっております。初日の10:00からは「コミュニケーション研究と社会実践」と銘打ち、実践的な学問であるコミュニケーション研究と社会との関係を深く論じていただきます。

また、九州で行われる年次大会ということで九州のコミュニケーション研究に焦点を当てたパネルセッションを企画しました。独自のジャーナルを擁し、活発に研究が行われる九州支部を支えてきてくださった先生方をお迎えし、これまでの発展の裏にあった苦労話などを聞かせていただきます。ご期待ください。

年次大会へはオンラインで参加のお申し込みができます。JCAのホームページから年次大会の申し込みサイトに進んでいただき、手続きを行ってください。大会の参加登録だけでなく、懇親会、お弁当についてもお申し込みいただけます。なお、オンライン申し込みは、今年も東部トップツアーズによって運営されています。

お申し込みの際、会員番号を入力する欄があります。会員番号は学会から送られてくるプログラムなどの郵便物の宛名の一部に記載されています。大会登録に際してはこの番号をご参照ください。

最後に、今年度の研究発表の応募状況についてご報告いたします。2016年2月19日の締め切り時点で個人発表17件、パネルに関しましては計6件のご応募を頂きました。5人の査読者の評価を基に、これら全てを採択し、理事会で承認されました。ご応募いただき、まことにありがとうございます。

(学術局年次大会担当理事 野中昭彦)

### 学会誌に関するお知らせ

現在『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第44巻2号の編集がほぼ終了し発行に向けた最終準備をしています。今回の学会誌には4本の研究論文と2015年度年次大会での基調講演者の林香里氏の論考が掲載されます。6月上旬には皆様のもとにお届けできると思われますので少々お待ちください。

現在は、第45巻1号の締め切りが1月末に終了し、9本の論文(内1本は再審査希望論文)が投稿されました。こちらは11月末の発行を目指し、査読作業が順調に進められ審査結果の取りまとめが現在行われています。また、第45巻2号(2016

年5月末発行予定)への投稿論文を募集中です。締め切りは7月末日ですので是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal@caj1971.com

CC: jisakai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井(jisakai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

時代は刻々と変化しています。昨今では、人工知能におけるディープラーニングにより、認知・判断機能は人間に特有のものとは言えない事態となっています。また人工知能の革新的進化は、「人間とは何か」についての問い直しを余儀なくすることでしょう。人間についての問い合わせは則「コミュニケーション」に対する問い合わせにもつながることであり、本学会の今後の世界における役割はさらに重要になると考えられます。皆様におかれましては、是非、様々な角度からの「コミュニケーション」に関する研究を本学会ジャーナルに投稿していただきますようお願いいたします。

最後になりますが、6月の年次大会では学術局セッションとして「コミュニケーション研究と社会実践」と題しパネルディスカッションを行います。知行同一としてのコミュニケーション研究活動の可能性を皆様と模索・共創する場としたいと思っております。お時間があればぜひご参加ください。

(副学術局長:ジャーナル担当 坂井二郎)

## 2015年度ジャーナル『日本コミュニケーション研究』掲載論文

『日本コミュニケーション研究』第44号 第1号(平成27年)

特別企画: コミュニケーション教育の現状と研究課題—コミュニケーション学的アプローチからの探求—

五十嵐紀子「他分野とコミュニケーション教育を語る意義—医療福祉分野で求められる『コミュニケーション力』をめぐって—」

小山哲春「メタ認知能力としてのコンピテンス涵養のためのコミュニケーション教育」

森口稔「段階的コミュニケーション力と学校教育」

守崎誠一「コミュニケーション教育は可能か」

石橋嘉一「産業界のニーズに傾倒したコミュニケーション教育の現状と課題」

吉武正樹「コミュニケーション教育研究の次元を開く—教室と社会をむすぶ発達の最近接領域—」

研究論文:

池田理知子「多様な意味を生みだす講話の場—水俣病資料館のある『語り部』の事例から考える—」

池田章子「組織におけるファシリテーションに関する探索的研究—メンバーの自律および協働はいかにして『促進』されるか—」



『日本コミュニケーション研究』第44号 第2号 (平成27年)

特別企画：

林香里『マスコミ』の終焉、ジャーナリズム研究の革新」

研究論文：

IMAI Tatsuya, UMEMURA Tomo, Anita L. VANGELISTI, TANIGUCHI Emiko, René DAILEY

「Worrying Weighs on Your Partner's Heart: Exploring How Rumination about a Romantic Relationship is Associated with Relational Uncertainty Using Dyadic Data」

埴幸枝「情報アクセシビリティの観点からみる「共生」—聴覚障害者のお笑いの字幕化をめぐる—」

SAKATA Fumi, 「On the Way to Language Communication: Heidegger and the Quest for the Essence of the Thing/もの」

加藤なつみ、増田靖「インターファシリテーションによる実践共同体の生成—研究者=実務者の視座から見た新製品開発事例—」

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 2016年度年会費の請求について

2016年度の年会費は7月中旬頃に請求させていただきます。

#### 2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

本年6月11日に開催される理事会までに2013年度、2014年度、2015年度の会費が全て未納の場合には、会則第12条内規に従い、特別な理由がない限り除名させていただきます。また会則第8条内規に従い、2014年度の会費が未納の場合（2015年度入会者は除く）にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

#### 3. 会費残高の確認について

学会ホームページの「会員各種手続き」→「会員登録情報変更手続き」のページにて、会費の残高（未納金額）をご確認いただけます。振込用紙を紛失された方は、郵便局に備え付けの用紙をご利用いただくこともできます。残高をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みください。

郵便振替口座番号：00190-0-721181

加入者名：日本コミュニケーション学会

#### 4. 学生会員・準会員登録申請について

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で学会支援機構までお送りください。

#### 5. 会員情報変更の際の届のお願い

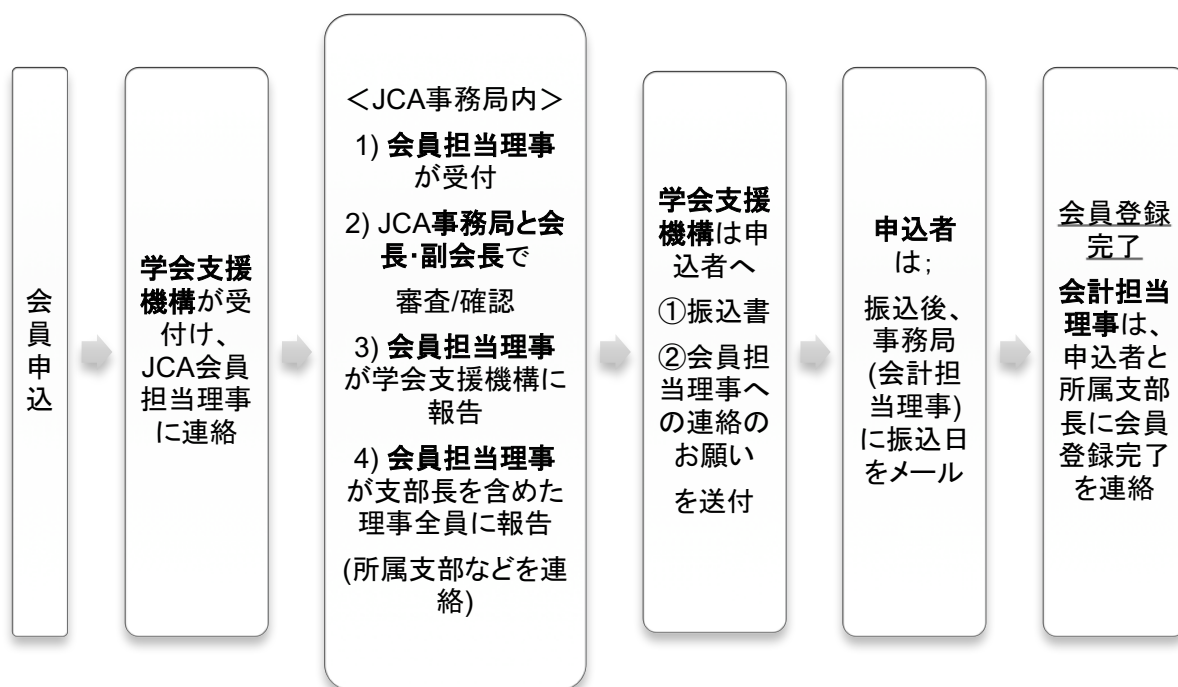
入会された時点と所属や住所、またはメールアドレスに変更がある方が多くいらっしゃいます。会員情報を更新するため、年次大会プログラムに同封されている総会の出欠ハガキの通信欄をご利用いただき、変更のあった方はお手数ですが最新情報を必ず記入の上ご返送ください。今後JCAからのいろいろな情報が、メールによって配信される予定です。メールアドレスの変更の際は、忘れずにご連絡ください。

#### 6. 学会発刊物の購入申し込みと閲覧、複写申し込みについて

ジャーナルのバックナンバー、記念論文集、大会プロシーディングズ等学会発刊物をお求めになりたい場合、学会支援機構にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナル、記念論文集については、国立情報学研究所の論文情報ナビゲーターCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧、印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。

## 7. 新規会員の手続き

JCAでは、新しい学会会員を随時受け付けています。スムーズでより入会しやすいシステムに移行するため、以下のような流れ形で、新規会員の手続きを行います。とくに、会費納入について迅速に確認するため、新規の申込者には、会計担当理事にメールにて会費の振込した日をお知らせいただくようお願いすることにいたしました。その上でJCA事務局から申込者と所属支部長に、会員登録の完了を連絡するようにいたします。ご不明な点がありましたら、事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 2015年度決算／2016年度予算案

年次大会の総会で諮る決算書案および予算案について審議を行った。支部助成金申請を12月の理事会までに行うことができるだけ早く申請することまた、研究会助成金に関してはあらかじめ上限を設定せず、申請ごとに会長および副会長の承認をもって支給されることが承認された。

## 広報局便り

### 1. 第46回年次大会の広報局活動

広報局では、プログラム広告と大会当日の書籍展示のご協力を呼びかけました。今年は、以下の企業様からのご協力を得ました。心からお礼申し上げます。

① プログラム広告へのご協力企業様 (受付順)

ナカニシヤ出版、ひつじ書房、有斐閣、キャンパスサポート西南

② 書籍展示ご予約企業様

極東書店

多くの参加会員の皆様に、出展ブースへのお立ち寄りをお願いいたします。

### 2. 学会ロゴマーク使用規程・ロゴマークの電子ファイルの掲載について

4月8日に学会ロゴマーク使用規程とロゴマークの電子ファイルをHP上に掲載しました。学会の各種活動において広くご使用いただきたいと思っております。

### 3. ホームページについて

トップページに学会誌「日本コミュニケーション研究」(第44巻2号)投稿案内を掲載しました(掲載日3月30日)。引き続きニュースレターはホームページへの掲載のみとなります。

ホームページなどに関して、ご意見やご提言があれば、広報局まで、お気軽にご連絡をお願いいたします。また、多くの情報をJCAホームページ(<http://www.caj1971.com>)に掲載していますので、ぜひご覧ください。

(広報局長 高永茂)

## JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。

① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で250～500字程度 of 原稿を受け付けております。

② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で1000～1500字程度 of 原稿を受け付けております。

③ 書評 / 教科書(テキスト)紹介

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評、および、コミュニケーション関連の教科書(テキスト)等の紹介を受け付けております。和文で1000～1500字程度 of 原稿を受け付けております。

④ NL表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会のNL表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

# 支部ニュース

## 北海道支部

(運営委員 伊藤 明美)

2016年3月6日(土)、札幌市立大学サテライトキャンパスにてJACET(大学英語教育学会)、ならびにHELES(北海道英語教育学会)との合同研究会を開催しました。今年で2回目となった3学会合同研究会は、大学院生や若手研究者、またJCA東北支部からも参加があり、全体では58人が集う盛会となりました。



今回は4件の研究発表があり、それぞれ活発な意見交換がなされました。その後、「アジアの英語教育」というテーマでシンポジウムが開かれ、4名のパネリストによる報告がありました。JCA北海道支部からは、北海道情報大学のCharles McLarty氏が登壇され、パソコン等のハイテク技術が必ずしも学習者の英語運用能力を高める指導に生かされていないといった現状、筆記試験によるコミュニケーション・スキルの評価などに対して疑問を呈されました。研究発表、シンポジウムともに参加者の知的関心が刺激される内容で、定められた質疑応答の時間が不足するほど多くの意見や質問が出されました。今回は英語教育にかかわる発表が多数を占めましたが、JCA会員にとっても学ぶべきことの多い研究会となりました。



北海道支部では、支部大会(11月開催予定)、支部研究会(3月開催予定)で発表を希望される方を随時全国から募集しております。ご関心のある方は、どうぞお気軽に事務局(担当:目時光紀 metoki0702アットマーク gmail.com <「アットマーク」には@を入れてください>)までご連絡ください!

## 東北支部

(支部長 川内 規会)

### 活動報告

1. ニュースレター第26号の発行(2016年2月)
2. 支部HP支部ホームページの更新  
<http://www.caj1971.com/~tohoku/news.html>  
(皆様、ぜひ一度ご覧ください。)
3. 2015年度東北支部定例研究会の開催  
(2016年3月19日、仙台市、出席者12名)

### 【研究発表4件】

- ・「オブジェクト指向コミュニケーションモデルの一考察—児童における「いじめ」について—」小島正美(特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク)
- ・「Media Literacy: Media and Culture」Michael Smith (Aomori University of Health and Welfare)
- ・「過去3年間の『医療通訳養成研修』の企画・実施から見てきた研修効果と参加意識の変容」川内規会(青森県立保健大学)
- ・「病の語りによる自己を他者化することの意味〜闘病



記を出版して～」五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）

【情報提供】

・「多文化社会とコミュニケーション」菊池哲佳氏（公益財団法人仙台観光国際協会）

講師の菊池哲佳氏は、数多くのボランティア活動、支援活動を積極的に取り組んでいらっしゃる方です。仙台市災害時言語ボランティア活動を行っており、東日本大震災では、仙台市災害多言語支援センターとして、外国人被災者が必要な情報の提供や支援を多言語で行う活動を担当しておりました。

本研究会では「多文化社会とコミュニケーション」と題しまして、多文化社会の中で課題に感じていらっしゃることをお話ししていただきました。その後、出席者と一緒に多文化社会について情報交換をし、活発な意見交換が行われました。



今後の活動予定

1. 2016年6月11日(土) 年次大会時に支部総会を開催
2. ニュースレター第27号の発行（年2回発行）
3. 2016年11月頃（予定）第17回JCA東北支部研究大会（新潟）開催
4. HPの随時更新  
<http://www.caj1971.com/~tohoku/>

## 中部支部

（支部長 藤巻 光浩）

ここ数年間、中部支部に関わってきました。以前は、関東支部に出席していたのですが、職場が変わったのを機に中部支部に参加するようになりました。それ以前の中部支部は存在してはいたのですが、様々な理由

により支部活動は必ずしも活発ではありませんでした。その後、福本先生による協力なリーダーシップにより、中部支部のかたちがみえるようになってきたというわけです。

名古屋には、岡部先生や近藤先生たちによる「コミュニケーション研究者会議」があり、いろいろな意味で存在感が大きかったと思います。通常のJCAの大会とは異なる形式で行われ、議論が非常に活発に交わされました。

このことを考えるにつけ、現在の支部大会や年次大会の研究報告は、随分とお互いに「わきまえた」調子の空気が流れているような気がしています。「わきまえた」というのは、あまり突っ込んだ議論を避ける傾向にあるというか、実質的な議論を交わすことを避けているようにさえ見受けられることがあります。

二点ほど、その理由を考えることができると思いますが。第一に、お互いに顔見知りでないケースが増え、どうもポライトに振る舞い過ぎる傾向にあるということです。儀礼としては必要なことかもしれませんが、やりすぎると表面的な意見交換に終始してしまうことになり、報告者がしかるべきフィードバックを受けることができなくなる可能性があります。

第二に、分野が細分化されすぎたためなのか、（報告内容に対して）質問者が「門外漢」である可能性が高まり、もしかしたら意義があるかもしれないのに、質問やコメントを控える傾向があるように見受けられます。お互いに「門外漢」を自称してしまうと、報告パネルの中でコミュニケーションが起こらなくなってしまう、それぞれの研究が「タコツボ」の中に入り込んでしまいます。これは、コミュニケーション学の危機であると認識しております。

中部支部では、顔の見える関係を生かし、ささやかではありますが、再度「コミュニケーション学」についての議論を活性化させるために、「コミュニケーション学概論」のための教科書作りを企画し始めました（まだ企画段階ですが）。「タコツボ」を増やすのではなく、学術の可能性を開いていくためのしくみを作りたいと思っております。何度も企画会議を行っており、そろそろ今回の支部会などで、案内ができる頃合いになりつつあります。こんな企画に興味をお持ちの中部支部会員の方、是非、年次大会の支部会に顔をお出ください。お待ちしております。

## 関西支部

(支部長 守崎 誠一)

2016年3月12日(土)に、大阪キリスト教短期大学にて、2015年度第14回JCA関西支部大会が開催されました。今回の大会参加者は17名(うち非会員が4名)、懇親会への参加も10名あり、実り多い大会となりました。

最初に、会場校となりました大阪キリスト教短期大学の堀内夕子先生よりご挨拶をいただいたのち、支部総会を開催いたしました。守崎誠一関西支部長から2015年度の事業報告および2016年度事業計画が報告され、出席の支部会員(14名の委任状を含む)から承認を得ました。引き続き、田中典子さんより2015年度決算報告および2016年度予算案が報告され、同様に承認を得ました。また、審議の結果、秋期研究会を2016年11月19日(土)に開催することが決定されました。

その後、「私的テレビ史1969年～放送技術の革新と表現の変遷について」と題して、元関西テレビアナウンサーで帝塚山大学非常勤講師の杉山一雄先生にご講演(司会:森川知史先生 京都文教短期大学)をしていただきました。

この講演の後、以下の2つの研究発表がありました。

研究発表1(司会:杉田陽出先生 大阪商業大学)

森口稔(長浜バイオ大学非常勤)

「コミュニケーションの観点から見た、高等学校学習指導要領・国語編および外国語編における問題点」

研究発表2(司会:北本晃治先生 帝塚山大学)

Kazunori Nozawa (Ritsumeikan University)

「Teaching Cross-Cultural Communication with the Latest Technologies」

支部大会の終了後、「一得(阿倍野店)」で懇親会が開かれ、非会員を含む10名での楽しい交流会となりました。秋季研究会の詳細については、随時、関西支部のホームページにて案内をいたします。



## 中国・四国支部

(支部長 Rudolf Reinelt)

中国四国支部では、現支部長ライネルトの任期満了につき、3月に支部長選挙を実施いたしました。次期支部長の候補として、昨年12月の中国四国支部大会を担当していただきました脇忠幸先生(福山大学)から内諾を頂き、選挙を実施した結果、返信があった支部会員全員からの信任をもって6月より脇先生が新支部長に就任される運びとなりました。

そこで、新支部長より皆様に就任のあいさつをしていただこうと思います。

新年度から支部長に就任する予定の脇(福山大学)です。中国四国支部では、ここ数年「医療コミュニケーション」を軸として議論を深めてきました。新体制へ移行するにあたり、この財産を活用しない手はありません。今後の支部大会では「コミュニケーション教育」を大きな柱として据えられないかと思案しています。今年度の支部大会は、前年度に引き続き12月初旬に福山大学(宮路茂記念館)にて開催予定です。医療者教育、国語教育、英語教育、大学の初年次教育や語学教育など、多くの方々の実践と知見を共有したいと考えています。会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

今年度の支部大会につきましては、詳細が決まり次第会員の皆様にお知らせする予定になっております。続報をお待ちください。

ちなみに、Japan Communication Association 日本コミュニケーション学会(旧 CAJ)第 18 回中国四国支部大会の発表はこちらでご覧になれます

<http://web.iec.ehime-u.ac.jp/reinelt/JCAcsNL40no5.pdf>



(支部長 池田 理知子)

#### 第 23 回九州支部大会

今年の第 23 回支部大会は、10 月 22 日 (土)、熊本大学で開催します。大会テーマは「記憶と未来：71 年目からの戦後史」で、大会委員長は平野順也先生です。多くのみなさまが参加されることを願っております。以下、大会趣旨を載せておきます。

2015 年、第二次世界大戦終戦 70 周年を迎えた。また 2015 年は、「原子力」発電所を再稼働させ、平和安全法制が可決された年でもある。「黒い雨」が日本を濡らしてから 70 年、2015 年が戦没者の「鎮魂」の年ならば、終戦 71 年目の 2016 年は日本の未来を見据え彼らの叫びを「拡声」する年であるべきだろう。すなわち、2015 年が戦後から 70 年後を記念した年ならば、71 年目の 2016 年は未来に向けて戦争の記憶を語る年なのである。第 23 回日本コミュニケーション学会九州支部大会は「記憶と未来：71 年目からの戦後史」をテーマに熊本大学にて開催する。(平野順也記)

#### 学会支援機構の連絡先

〒112-0012

東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F

一般財団法人 学会支援機構

日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011 / Fax: 03-5981-6012

E-mail: office(@を代入)asas.or.jp



# NL の電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価値の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1 オンラインで Web 登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。
  - \* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

## 編集後記

NL112号をお届けいたします。前任の北本先生より引き継ぎ、101号よりNL編集の担当を務めさせていただいて参りましたが、今号で最後の担当となります。この間、学会の英語名称がCAJからJCAとなり、ロゴも一新、そしてNLも107号より完全電子化となりました。編集者の力不足ゆえ本NLは「超変革」とはなりませんでしたが、今後は電子化の利点を更に活かし、会員の皆様のご期待に応える紙面となっていきますよう、また別の形で貢献できればと思っております。これまで様々な原稿をお寄せ頂きました先生方、会員の皆様、大変お忙しい中ご協力いただきまして、本当に有難うございました。そして、愛読頂きました会員の皆様に心より御礼申し上げます。また、広報局員として編集のお手伝いをいただいた野島晃子さんにも、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

年次大会まで1ヶ月を切りました。福岡の地で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

広報局 ニュースレター担当 小山 哲春